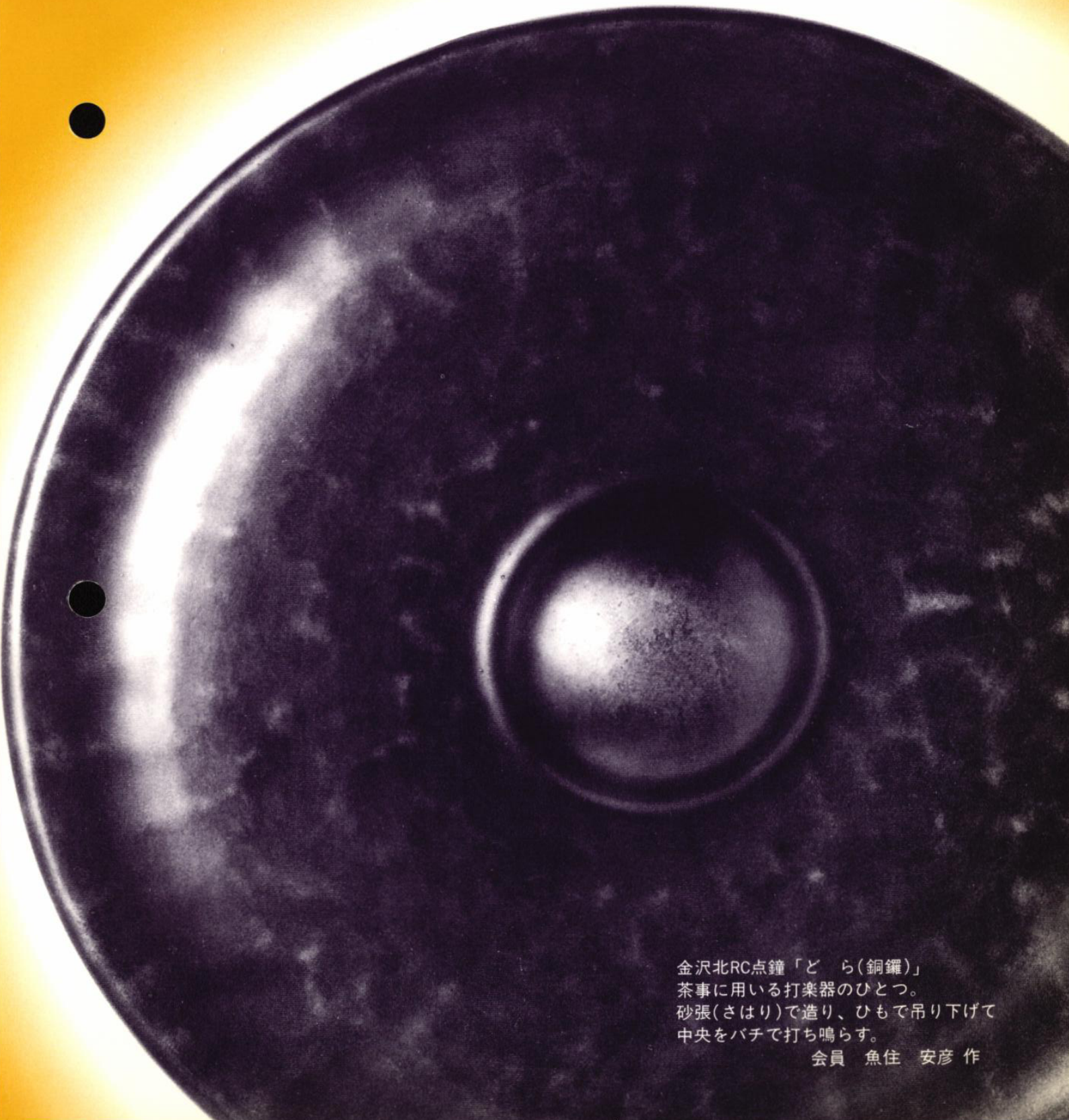




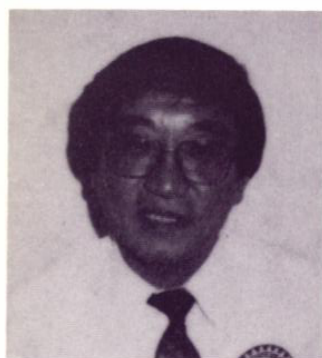
金澤北ロータリークラブ



金沢北RC点鐘「どら(銅鑼)」
茶事に用いる打楽器のひとつ。
砂張(さはり)で造り、ひもで吊り下げて
中央をバチで打ち鳴らす。
会員 魚住 安彦 作

「カラスのことはカラスに聞かなきゃ分からない」

金沢市生活環境課長 苗代 正宣氏



金沢城をめぐらしているカラスは、2年前の調査では最大9,000羽、最少1,500羽でした。最大は12~1月で、最少は4~5月です。最少となる時は営巣の時期でねぐらに帰らないのです。残っている1,500羽は、相手が見つからなかったか、年齢的に繁殖期に入らないという理由で残っていると推測していますが、本当のところはカラスに聞かないと分からないのです。金沢のカラスの数は1971年に最大時1,500羽という調査があります。23年間に約6倍に増えた訳で、このまま増えていったらどうか計算すると、言うのがはばかられる数になります。

金沢城ねぐらは石川門の下の白鳥路側が中心ですが、数が増えて裁判所や兼六園へ上がる坂の桜の木へはみ出しています。ここは、車は走るし照明灯も当たって人通りも多く、非常に条件が悪いのです。そばにある兼六園の方が、夜間は人通りも明かりもなく、木も水もあって、人間の常識ではずっと良いねぐらなのですが、何故かそちらに行っていません。観光客や美観などの問題から、金沢城ねぐらのカラスを何とかしろと言う話もありますが、追い出すことは可能だろうと思います。しかし、追い出されたカラスは、間違いなく兼六園へ移り、木々も糞で真っ白になったりして、余計にまずいことになります。

カラスを撃退する方法には、光、音、臭、ちょっと高級になると電磁波などがありますが、どれも最初は効きますが10日もすると効かなくなります。竹の棒に一升瓶を立てかけておくとカラスが来なくなったとか、ナイロンストッキングの中に女の人の髪の毛を入れて立てておいたら来なくなったとかいう訳の分からない方法を言う人もいたりします。カラスも戸惑って来なくなるのかと思ったりもします。数を減らそうとしても、皆殺しにすれば別ですが、殺してもすぐに増えてしまいます。最終的には餌を減らすしかないと思います。カラスの被害の多いゴミのステーションがありますが、普段からきちんとネットを掛けたりしているステーションは、ある日ゴミがめちゃくちゃになっていても、カラスが「あのステーションは悪い」と決めていて、被害がありません。ゴミはきちんと出してほしいとPRさせていただきます。また、カラス撃退の良いアイデアがありましたら教えていただきたいと思います。

高田ガバナー公式訪問報告

幹 事 安 宅 雅 夫

公式訪問の日程が事務局より連絡があり、殆ど一日の大半をロータリーについやすばかりであり、幹事というお役目上、これも仕方がないことだと本音の部分ではあきらめていました。

9月26日(木)当日9時40分に例会場に到着すると、なんと高田ガバナーはじめ、公式訪問随行の今井分区代理、御旅屋地区副幹事は既にお着きになっていらっしゃいました。勿論わが中谷会長も到着されており、さすがトップにつく方達は違うものだと先ずは、教えられました。

しかも、遅くなった非礼をわびると、自分達が必要以上に早く来たのがたら問題ありませんよと言われ更に恐縮してしまった次第でした。

ともかく午前中の会長、幹事懇談会は和気あいあいの内にも充実した懇談会であったと感じました。ガバナーは、自分の方がいろいろ勉強させていただく事の方が多い北クラブであり、たいへん嬉しく思っておりますとのお言葉を頂戴し、先輩会員のご努力のたまものであると素直に喜びを感じたものです。

例会にも、素晴らしい卓話を聞かせていただき、引き続きクラブ協議会が理事各位の出席のもと開催され、当クラブの現況をつぶさにご報告いたしました。

その折にも、北クラブの活動は、まさに地域に密着したロータリー本来の事業をしており、組織も独得のものであり素晴らしいこととおほめいただきました。

ロータリークラブの本質は、互いの切磋琢磨によって人が人をつくりあげていくところにあります。従って人間を磨きあげることに終着駅はなく、常に向上する努力が必要ですという主旨のお話をはじめ多くの印象深い話をうかがうことが出来、ガバナーのお人柄に感銘を受けた素敵な素敵な一日でありました。

仕方なく立場上、出席しようとした自分が恥ずかしくなってしまった一日でもありました。

出席していただいた各位にもお礼申し上げ報告といたします。

